



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／竹村 一幸
- 副会長／小野 仁 中畑 隆一
- 幹事／小口 泰史
- 会報・雑誌・広報委員長／坂井 忠彦

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F
Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939 ・ URL:http://okayarc.org ・ E-mail:okayarc@amber.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2309 回例会 2006 年（平成 18 年）9 月 26 日（火）

司 会：山岡正邦 齊 唱：我等の生業
点 鐘：竹村一幸 ラッキーNo.：No. 9 濱透
メ イ ク：大田中峰雄(ガバナー事務所) 演 奏：赤とんぼ、ラノビア

会長挨拶

本日は横田盛廣ガバナーをお迎えしての公式訪問例会です。先程、会長・幹事懇談会を行い貴重なご指示を頂きました。先の災害に対し 8 月 25 日に岡谷市に単身で出向いて頂き、災害義援金を贈られました。心より感謝申し上げます。第 2600 地区にはこの様な災害に対する義援の規定が無い様なんですが「不易・流行」の運営基調を率先され規定を変えていく事のようにです。

横田ガバナーは青年時代は日本青年会議所の副会頭で私も会員でしたのでお名前は存じておりましたがお会いしてみても大変情熱家で行動力のある方と理解致した次第です。今日は十分時間をかけて、当クラブの 50 周年に向けて蘊蓄あるお話が頂けると思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

会長報告

- ・ 9 月 21 日に畑博明会員のご尊父様の葬儀が照光寺で行われ、会長・幹事が代表して、参列致しました。
- ・ 9 月 23 日に開催された岡谷市戦没者追悼式にクラブを代表して列席し献花をして参りました。式典後の平和を考える集いで市内中学校代表 4 名の広島体験研修の感想文の発表があり、力強く平和への願いを訴えておりました。

幹事報告

- ・ 次週例会前 12 時より理事会を開催します。理事・役員の方はお集まり下さい。



ガバナー公式訪問

第 2600 地区ガバナー
横田 盛廣 様

7 月の災害には皆様方のご活躍に敬意を表します。地区の方では少し対応が遅れてしまい残念でした。この機会に地区もこの様な事

に対しての対応が必要だという事が分かりました。ロータリーとは何んぞやと地域社会では非常厳しい評価を受けながら皆様方が活躍されていることを私自身勉強になりました。皆様方ご苦勞様でした。

何で横田がガバナーなのと思う方も多くいらっしゃると思います。それほどロータリーで私の顔を見た事が無いのではないのでしょうか。JCが終ってすぐにロータリーに入りました。5年ほどは真面目なロータリアンでしたが、委員長を2回程受けましたら先輩がお前は色々やりすぎる生意気だと言われました。それでもここにいてずっと人生をロータリーライフと言ってられるのかと考え、それ以来アウトサイダーとしてロータリー以外でロータリー活動をすれば良いのではと言う事で誠に出席率の悪い会員でクラブでは困り者でした。が、突然、私の25年間のスリーピングをまとめて奉仕活動をするという事でガバナーを受けました。今度の災害でも分かりましたが、ロータリーとライオンズとの違いも明確になって来ました。元々は「同じ釜の飯」の仲でしたが、1917年ライオンズが出来ました。ちょうど財団を作る時期で、ロータリーが職業奉仕だけではなく社会奉仕をしていかななくてはロータリーであり続けられないのではないかと明確になった時でした。ロータリーは色々な変遷を経て来ました。分裂の危機もありましたが、最後に留まるところがコミュニティー奉仕、要するに世界というコミュニティーへのサービスをするのがロータリーであると言う事で論争が落ち着いてきました。ただ、やり方については「超我の奉仕」これは1950年代にすでに言われていましたが。自分の利益よりは他人の利益を考える。ロータリーも社会や人、世界の為に何か出来ないのかという事になりました。徳は隠れてやって来たのがロータリー流の哲学です。最近随分変わって来ました。公共イメージを上げようではないかと言う様になりました。今の時代はやっている事はやっていると表に出し仲間を増やしていこうと言う発想ではないかと思えます。これは大変な変化だと思います。ロータリーと言うのはこの様な形で独りよがりの面もあり自己満足になって来た事も否めません。これでロータリーが衰退期に入ったとも言われます。世界全体ではロータリーの会員数は増えていきます。アメリカ、オーストラリア、日本等の主要国の会員が減少しています。しかし昨年のRI会長ステンハマー氏が、ロータリーは変わるんだと中国にクラブを作り、ロシアに地区を作り、カンボジア、キューバ等々世界中に広めました。何故だろうと疑問に思いましたが、これはロータリー活動をロータリー運動にしようという、世界の平和、世界の人々の生活改善をしよう、転換を図るのが今のRIの方針です。人道支援、教育・識字の支援、水問題、全てにロータリーが大きな流れを作ろうとしています。ですからロータリー運動になりますと一人でも多くのメンバーが居ないと運動にはなりません。要するにロータリーとは地域において地域の活性化を図るべきではないか、まさに地域社会の発展なくしてロータリーの発展はありません。ロータリーが減った最大の原因は経済でした。経済社会の変化とロータリーの進歩にギャップが出来たのです。ロータリーのやり方は旧態依然たるものです。しかし世の中はどんどん変わっています。そういう点でロータリーは大きな試練に直面したのではないかと私は思います。

では、世界への奉仕という事で具体的にはと言うと、世界では水が足りない、毎日6千人の子供が飢餓や水問題で亡くなっています。ポリオはロータリーが取り掛かった最大のプロジェクトでした。これは成功への最終段階へ入っています。まだ、1億\$程足りないそうですが、活動がようやく実ってきたのは事実であります。

例えば当クラブが世界奉仕をやりたくてどこかと組み、マッチングプラントを使い国際奉仕をしても簡単ではありません。継続が大変のようです。ならば我々が 1 人 100 \$ を出し RI や財団を活用して世界への奉仕活動に役立てる。まず、100 \$ で貢献をしてロータリアンである意味をしっかりと把握すべきではないでしょうか。RI や財団が無ければロータリーは存在せず親睦団体になってしまいます。そうでは無いのだという証をもう一度確認する必要があると思います。その為に地区では 1 人 1 日 100 円運動をやろうとしています。100 \$ と言っても 1 万数千円程になります。一度には中々大変だとか、それくらいの金額だとか言う人もいますがそう言う事ではないのです。1 日 100 円運度をやれば財団の 100 \$ と米山の 2 万円も出来ます。1 日 100 円を払えない人はいません。気があるか無いかです。それはロータリーを理解するか、しないかで変わると思います。これが一つの大きな柱です。もう一つの柱は地域社会への奉仕です。災害の時に尾関ガバナー補佐、竹村会長の下グループ、クラブで大変な活躍をされました。地域社会における存在と言うのはまさにそこにあります。ですから RI=財団です。RI に財団が無ければ単なる組織体なのですが、クラブは財団を頼りに、財団はクラブを頼りにして国際ロータリーを作っています。一方で地域社会に貢献しなければロータリーは存在しません。この様に二本の柱の上に来た大きな木がロータリーであると考えれば一番良いかと思えます。我々のやる事は本当に地域社会で必要なのか、もしロータリークラブが消えてしまったら地域の方は嘆くのであろうかと、もう一度足元から考える必要があると思います。ロータリーはボランティアですから放っておけば衰退します。絶えず自問自答し、自制し、自浄していかなければ続きません。RI も 102 年を過ぎました、この地区も分割して 20 年が過ぎました。ここでロータリーがどうして今、衰退してきたかということを考える必要があると思います。最大原因は経済、社会の変動があると思えます。他に惰性、前例に習う、過去に縛られる、こだわると言う事で変わらないのではないのでしょうか。今年は「不易・流行」を取り入れ、守るもの、変えるものを足元から見直して行きたいと考えました。例えば地区には決定権はありません。なんとなく持っているのはパストガバナーの諮問委員会です。エレクトが何かしたくてもやりようがありません。と言う事は変わらないと言う事です。これではいけないという事です。手続き要覧には「諮問委員会は決定機関では無い、ガバナーの権限を諮問委員会メンバーは束縛するものではない」とあります。ならば決定機関が必要であると思えば民主的にガバナー補佐、委員長が審議するチームが有っても良いと思えました。今まで惰性でやってきた事を一度止め、新たなものを作らなければ新しい時代にはならないという発想です。この様に我々は衰退の原因を除いていかなければなりません。もう一つ、今、会員数が急速に減少しているクラブがあります。その様なクラブほど増強の為に親睦を強めます。懇親に必要なお金、時間が多くなり、ロータリーにこれだけの価値が有るのかと思われれば、若い人は入会しません。全体的に平均年齢が上がってきました。49 歳までのメンバーが日本では全体の 13%、韓国は 55%、アメリカは 33% です。日本が一番若い人が少ないです。若い人が入れるように仕組みを考えていく事がロータリーの衰退を防ぐ重要な課題ではないか、その為には親睦より奉仕ではないのでしょうか。衰退していくクラブがどんどん衰退していくのは何とかして楽しくしようと親睦をやろうとしてグライダーが着地するように静かに落ちていくと言う気がします。幸い当クラブは次なる新しいプロジェクトチームが発足されたようです。50 年を過ぎて発展するクラブ、50 年経つとどう

にもならなくなるクラブに必ず分かります。どこに問題があるか、意欲の問題、あるいはプロジェクトの目標を明確にしなかったクラブ。良くある話ですが地区大会を開催すると会員が減少します。地区大会までは頑張ってそれが済むとやれやれと減ってしまいます。考えてみるとロータリーとは何かと本質についてあまり分からずなんとなく親睦をしてきたという世代があるのではないかと言う気がします。私がロータリーをサボってきた原因もそこにもありました。ところがロータリーを知れば知るほどすごいなと分かってきました。知る人ぞ知るロータリー。日々の中でロータリーを知る人は殆どいません。その点からでもロータリーは変わる時期が来たと思います。

奉仕活動をどうあるべきか考えなくていけない。どのクラブも色々な奉仕活動をやっていますが、これからの奉仕活動はどうあるべきかに少し触れさせていただきます。先日、社会奉仕セミナーを開催し、中学生の酸性雨の調査発表、水問題活動の成果発表等々ありました。私はロータリーの色々な本を読みこれだなと思ったのは、ロータリーは水から奉仕を行動せよ、RI がいくら言ってもやるのはクラブ、しかしクラブも何をやるかの情報が不十分です。今年はコミュニケーションを良くしようと言う事でセミナーを4つ開き情報を提供する事が出来たと思います。しかし、情報を得れば良いのか、皆さんがそれでボランティア活動が可能なのかといえば難しいです。ならばロータリーのこれからの奉仕活動はと言うと、ロータリーとはいわば頭脳集団であると考えればどうでしょうか。優れた専門知識者が揃っています。そこで考えた知恵をボランティア活動として提唱する。そしてスポンサーシップでお金を用意する。そこまでは可能です。では、誰がやるのか、それは市民であり、学生であり、青少年、ご夫人であります。ロータリーが提唱するプロジェクトに参加してもらおうとロータリーの運動は非常に拡大されます。地域も密着し地域社会の活性化にも役立ちます。そうすると社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕、新世代活動が水面下で一つの奉仕プロジェクトにまとまります。我々は知恵を以って情報を集め地域に必要な奉仕活動を考案、提唱、資金支援をし、皆で行動し、一定の結果を見て新しい団体に移譲する。そして、又新たに考案等々と繰り返していけばロータリー運動は新鮮なものになります。この様に仲間を作る地域社会共同体として RI では RCC プロジェクトを計画しています。

さて、10/28・29 地区大会が飯田で行われます。テーマは「人口減少における地域経済」です。地域の為に何が出来るのか、これからの事を考えようと言うのがテーマです。会員セミナーも開催しガバナーの終了証が出ます。また、環境大臣小池百合子さんの環境問題についての講演があります。

クラブには文化があります。今までは、これからは、を考えて頂きたいと思います。50周年が良い機会だと思います。新しい活力のあるクラブとして50年以降の発展がそこで約束されます。約束は皆さん方がやるわけです。今後の益々の発展、企業の繁栄、ご家族の健康を心から祈念しまして。終わりにします。

ニコニコボックス

ガバナー横田盛廣様 本日は、お世話になります。

ガバナー補佐尾関秀雄様 ガバナー公式訪問でお世話になります。

植野忠道・林裕彦・林靖高・小口成人・此田滋・宮沢由己・山岡正邦・白鳥修次・北澤弘・山岸邦太郎・高木昭好・笠原久平・矢島進・小口俊光・藤森睦美・佐藤有司・小野仁・浜俊弘・河西洋・武井利夫・吉江信介・山崎典夫・永田修平・大橋正明・竹村一幸・小口泰史・濱透・宮坂伸・矢崎宏明・小口雅弘 横田盛廣ガバナーようこそいらっしゃいました。

宮坂宥洪 昨日、矢島社長にみつくろって頂いて20年ぶりに背広を買いました。

匿名 友人の93歳の母親が骨折して緊急入院しました。いち早く手術と行き届いた手当てに感謝です。

出席報告

会員数51名、出席者39名、出席率76.47%、前々回訂正92.16%

2006-2007年度 RI テーマ
率先しよう
LEAD THE WAY

